



2015年公演より

◆プログラム

解説

白坂保行

舞囃子

高砂
たかさご

シテ……鷹尾 祥史

狂言

二人袴
ふたりばかま

親……山本東次郎〔シテ〕
舅……山本 則俊〔アド〕
太郎冠者……山本 則秀〔アド〕
聲……山本凛太郎〔アド〕

能

石橋
しやつきょう

大獅子

童子……鷹尾 維教〔前シテ〕
親獅子……観世 喜正〔後シテ〕
仔獅子……鷹尾 章弘〔後ツレ〕
寂昭法師……宝生 欣哉〔ワキ〕
ほか

◆演目解説

舞囃子 高砂

松に象徴される夫婦の永遠の和合と、
颯爽とした神の祝福の舞

※舞囃子：能の最も面白い部分を、シテ一人が面・装束をつけず、紋付袴姿で、地謡と囃子を従えて舞う様式（能のダイジェスト版）

狂言 二人袴

息子にとっては一大事の婿入り。
華やいた雰囲気漂う祝言性の高いおめでたい曲

今日は日柄もいので、父親は息子に婿入り（結婚後初めて夫が妻の実家に挨拶に行く儀式）をしに行くように言いますが、息子は恥ずかしいので父親についてきてもらうことにしました。父親に袴を着せてもらい無事に舅とも対面を済ませたのですが、親の同伴が分かってしまい、舅は父親にも会いたいと言いつつ、舅は慌てて父親のいる門前まで戻りますが、祝儀の場に着用する袴がひとつしかありません…。



能 石橋

咲き乱れた牡丹の花に戯れる獅子の絢爛豪華な舞

中国・インドの仏跡を巡る旅を続ける寂昭法師は、中国の清涼山にある石橋付近に着きます。そこにひとりの樵の少年（童子）が現れ、寂昭法師と言葉を交わし、橋の向こうは文殊菩薩の浄土であること、この橋は狭く長く、深い谷に掛かり、人の容易に渡れるものではないこと「仏道修行の困難を示唆」などを教えます。そして、ここで待てば奇蹟を見るだろうと告げ、姿を消します。
寂昭法師が待つっていると、やがて、橋の向こうから文殊の使いである獅子が現れます。香り高く咲き誇る牡丹の花に戯れ、勇壮な舞を見せ、なびかぬ草木もない泰平の御代のめでたさを舞い納めると、獅子の座に帰るのでした。



「おいしい笑顔が見たいから」

味の兵四郎



0120-849-888

TEL 受付時間/9:00~17:30 (日・祝日休み) インターネット

ひょうしろう 検索

・筑紫野 本店(本社横) 博多大丸店(大丸福岡天神店 本館地下2階)

※他商品のお求めは、全国の有名百貨店にも置かせていただいております。詳しくはオペレーター、ホームページでご確認ください。